

タカスマウンテンズを訪れて



堀江 支配人

岐阜県出身。

スノーボードが好きでダイナランドに転職し、ダイナランド副支配人に就任。

中部スノーアライアンス株式会社に転籍し、取締役支配人に就任。

(一社) 郡上市観光連盟理事も務める。

本日は郡上市にあるダイナランドスキー場をご訪問し、堀江支配人に、ダイナランドを含めたタカスマウンテンズ、また郡上市のスキー場全体についてお話を伺いました。

岩尾専務)

お早うございます。昨日は郡上八幡に泊まりました。昔ながらの風情が残る落ち着いた街並みですね。郡上市アウトドア事業者協議会の事務局長をされている水口晶様からお話を伺いました。海外視察などを通し、個々の事業者ではなく「エリア」で人を呼び込む仕組みが肝要だと痛感し、そこで、アウトドア事業者協議会を作り、窓口の一本化、サイトの一本化、「GUJO」エリアの一体化を図ることを通して「GUJO」のブランド化を目指したいということでした。冬の集客の目玉はスキー場です。郡上市には10か所のスキー場があるようですね。お話を聞かせください。



堀江支配人)

郡上市にはこの高鷲地域の他に明宝地域、白鳥地域にスキー場があり、全部で10か所です。年間約115万人が訪れ、そのうち高鷲地区が6スキー場で81.4万人です。

岩尾専務) _____

来場者が随分多いですね。内訳はいかがでしょうか。

堀江支配人) _____

中京圏が6割、関西圏が3割、残りは北陸や浜松です。鉄道はありませんが高速道路が発達しており、高鷲町内に二か所インターチェンジがあり非常に便利です。名古屋から高速で1時間半で来られます。日帰りがほとんどで、99%が日本人、20歳台がメインで30歳、40歳台も多いです。東京圏3,500万人と比べ中京圏の人口は1,100万人ですが関西圏2,000万人も商圈人口です。関東マーケットのスキー場は150~200ほど、それに対し中部、関西は50です。相対的にかなり恵まれていますが、少雪化は非常に頭の痛い問題です。大日ヶ岳にはダイナランドと高鷲スノーパークの二つのスキー場がありますが、少雪化対策で、合わせて211基の人工降雪機を備えています。

岩尾専務) _____

スキー場の規模はいかがでしょうか。

堀江支配人) _____

ゲレンデ面積は、二つ合わせて180万平米、総滑走路距離43キロメートル、標高差600メートルで西日本最大規模だと思います。バックカントリーやツリーランもできます。上級者から初心者までオールラウンドなスキー場です。ただ、どうしても人工雪に頼ることが多いです。



岩尾専務)

多くのお客様で賑わっているようであり、インバウンド招致の必要はないということでしょうか。

堀江支配人)

そうではありません。将来の少子化を見据えた時、インバウンドの招致は不可欠だと考えています。なぜ、インバウンドの来客がほとんどないのか、各方面にいろいろ聞いて回りました。日帰り客がほとんどで宿泊施設がないこともあります、そもそも知名度がないのが最大の原因のようでした。そこで、ブランディングのため、高鷲地域の6か所のスキー場を「タカスマウンテンズ」と命名し、地域の宿泊、飲食などと連携しエリアマップの作製、シャトルバス、共通リフト券の発行などに取り組み始めました。名古屋のセントレア空港の便はアジアが中心なので、そこをターゲットに雪遊びでもよいですからまずスキー場に来ていただく、そのためのコンテンツはそれぞれのスキー場で工夫することです。ただ、雪遊びだけでは地元に金は落ちないですね。



岩尾専務)

スキーやスノーボードを体験していただくことが肝要でしょう。我々もいろいろな方とお話をする機会も多いのですが、スキーどころか雪を見るのも初めての方にはスキーやスノーボードを始めることは非常にハードルが高いようです。言葉のできるスタッフがいれば良いですが、例え身振り手振りであっても、ウエルカムな雰囲気があるということがとても大事なようですね。スキーやスノーボードを体験しファンになっていただければリピーターになります。インバウンドが増えれば、外国人のスタッフも雇用できると思います。

堀江支配人)

その通りだと思います。季節雇用の台湾人スタッフもいますし、スクールでも多少言葉の話せるスタッフもいます。スキー場のスタッフは高齢化しており今更語学の研修は無理ですが、困っている人がいれば日本語で構わないから聞いてやれ、ウエルカムな気持ちが大事だと常々話しています。

岩尾専務)

インバウンドの招致に取り組む場合、宿泊の問題が出てくると思います。どのようにお考えですか

堀江支配人)

対外的な誘致戦略とも密接に絡んできます。一つは「GUJO」としての取り組みです。

「GUJO」の冬のアクティビティとして行政も一体となってスキー場を売り込んでゆくということです。ただ、郡上八幡の宿泊の容量はあまり大きくありませんから、現状では多くのインバウンドの方をお迎えすることは難しいかもしれません。もう一つは飛騨の高山市を宿泊のベースにして、そこからの日帰りです。高速で40分です。此処には多くの宿泊施設があります。インバウンドに非常に人気のある飛騨高山、白川郷の観光ルートに冬のアクティビティとして組み込んでもらうという取り組みです。高山市の飛騨・高山観光コンベンション協会にも加入しました。ただ、地域が豊かになるためには、数は少ないですが高鷲地区にあるホテルや民宿や飲食を利用していただく事も重要であり、そのため地域のマップを作りました。地域循環のシャトルバスもあります。お客様にどこに何があるのかを知っていただくことで客が増えたという声も聞いています。アフタースキーの取り組みはこれからの課題です。

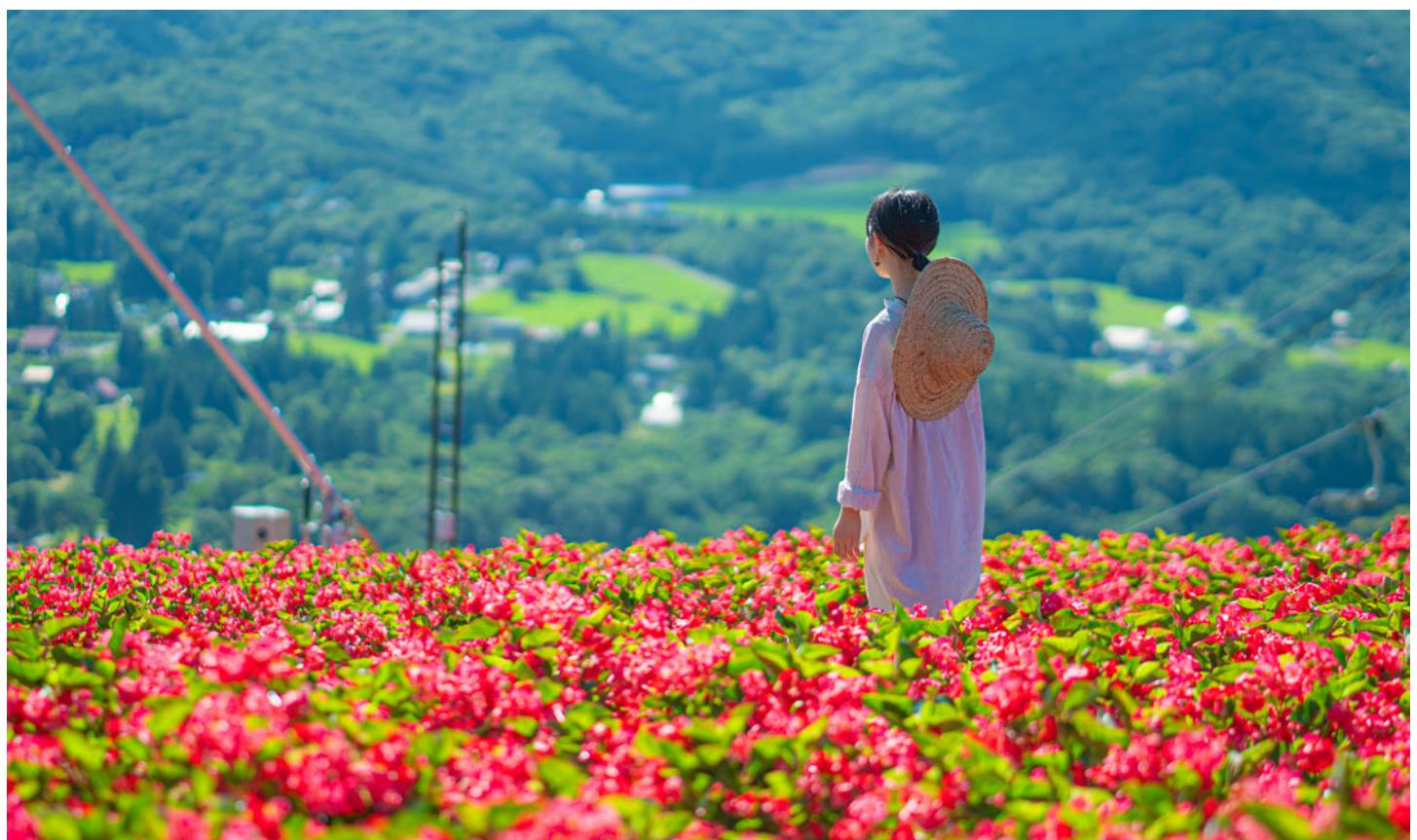


岩尾専務)

話は変わりますが、少雪化への対応、また通年雇用を考えた場合、グリーンシーズンの活用が各スキー場の課題となっています。いかがでしょうか。

堀江支配人)

ひるがの高原スキー場には頂上にお花畠があり、グリーンシーズンもリフトを運行しています。昔に比べればオールシーズン運営化の流れが浸透してきています。ただ、ジップライン、マウンテンバイク、キャンプ場等いろいろ取り組んではいますが、冬季ほどの売り上げになるものではありません。大日ヶ岳のゴンドラもオフシーズンには止めています。頂上をどのように整備し活用するのか、いろいろ検討していますが二番煎じではつまらないと思います。



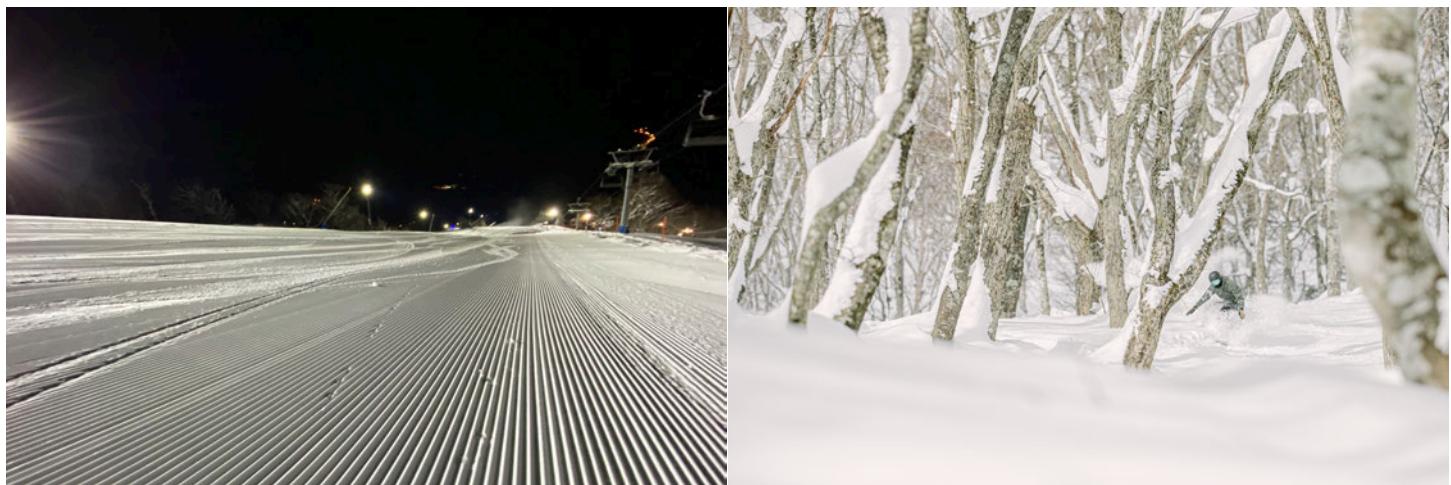
岩尾専務)

その通りでしょう、ただ、オンリーワンの何かをを求めるることは非常に難しいです。大日ヶ岳に登ったことがありませんので一般論になってしまいますが、大日ヶ岳からの景色は他にはないものですから、例え二番煎じであっても、付加価値をつけることができれば唯一のものになるのではないでしょうか。同じ「テラス」であっても、琵琶湖と白馬三山、各地の雲海で皆違うものになっていると思います。また、「星空」も、売り方次第ではないでしょうか。

ところで、雪がなくてはスノースポーツはできません。各スキー場でも温暖化防止のための取り組みを始めています。いかがでしょうか。

堀江支配人)

ダイナランドスキー場では12月から3月の間、23時までナイター営業をしています。ここで使用するゲレンデ照明を全てLEDに切り替えました。また、この4月に就任された新郡上市長は林業に精通した方で、郡上市としてバイオマス発電などの再生エネルギーを活用したスキー場運営を検討していただいております。我々も協力していきたいですが、先行事例では木材の確保が課題となっているようです。伐採、搬出、これらのシステム作りには森林組合の協力が欠かせません。何処も人手不足です。郡上市全体として林業に携わる人材確保の仕組みができるこことを期待します。100年後もこの雪山をこの土地に残していくことが我々の使命と感じております。



岩尾専務)

最後になりますが、今後の抱負についてお聞かせください。

堀江支配人)

やはり、今後のことを考えるとインバウンドの受入れ環境の整備が肝要です。行政と一体となり広域的に地域を売り込むと同時に、手ぶらでスキー場に来ていただけるように、事前に多言語でリフト券購入やスクール予約、レンタルのフルパック予約ができるオンライン環境整備を進めてまいります。その上で、スキー場だけではなく、高速バス、宿泊を含めたワンストップサービスに繋げていきたいです。近隣には、郡上八幡、飛騨高山等多くの観光地があります。観光周遊圏づくりには「足」の確保が必要です。行政と一体となってこれらの課題解決に取り組んでいきたいです。

岩尾専務)

皆様方のご努力、創意工夫で、「タカラマウンテンズ」だけではなく、郡上地域、飛騨高山地域が広域圏周遊圏としてますます発展してゆくことを期待しています。本日はお忙しい中取材にご協力いただきありがとうございました。